

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 藤本 哲	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>組織における専門分業と多能工化・兼業化との関連について論文執筆の準備を進めた。アダム・スミスの所謂『国富論』に書かれているピン製造の事例が有名であるが、専門分業あるいは機能別分業は生産性向上に大きな役割を果たしていることがよく知られている。それに対して、トヨタ生産方式の要素の一つとしてよく知られる多能工化や、星野リゾートの運営する宿泊施設などでの勤務のやり方としてサービス・チームと称される兼業化が、企業の生産性向上に大きな役割を果たしていることもよく知られている。これら2つの原理は一見矛盾しており、相容れないように思われる。しかし、通底する原則と、異なる適用条件を整理することで、理論的統合の可能性を指摘する予定である。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>経済学部特別講義（平成28年度後期分）の実施・運営を担当した。授業の実施、毎週のレポート採点といった、特別講義では通常行われてきた業務に加えて、講義開始時にはレポート作成に当たっての注意事項を、前週の採点作業を踏まえて、解説した。</p> <p>経済学部特別講義（平成29年度後期分）企画・立案・業務委託先との調整を担当した。群馬県内のある企業者団体へ業務委託するとの提案を受け、先方との調整や実際の企画立案を行った。先方の団体の事務局との調整を、本学事務局と共に行い、また例会に数回出席して直に経営者の皆様に、要望を伝えた。</p> <p>授業で配布する資料の英語化を段階的に進めている。一度に全ての資料を英語化する能力はもとより無く、また読む側もそれを求めている訳では無いことを十分に理解し、易しい部分から少しずつ取り入れている。交ぜ書きによる対応が、現実的であり、現実的に、段階的に進めている。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>専門分業と多能工化・兼業化との関連について、論考を発表の予定。</p> <p>手書き文字より印字文字が選好されるという現象を探究するために準備を進める。その前段階として、記入欄に枠付けをすることで、手書き文字自体がどのように影響を受け、変容するのかについて分析する。データ源となりうる資料は既に確保しており、研究の進め方を検討し、データ分析を進める。</p> <p>経営学等の研究蓄積から得られた知見を、大学運営の改善に生かせるよう働きかけができれば望ましい。例えばファカルティ・ディベロップメント等での会議において機会が得られれば、ピア・レビュー方式をベスト・プラクティス方式に転換するのが、経営学の観点から望ましいという趣旨で発言したい。</p>	